

機関番号：	12102
領域設定期間：	平成30年度～令和4年度
領域番号：	5001
研究領域名（和文）	都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究
研究領域名（英文）	The Essence of Urban Civilization: An Interdisciplinary Study of the Origin and Transformation of Ancient West Asian Cities
領域代表者	
	山田 重郎 (YAMADA, Shigeo)
	筑波大学・人文社会系・教授
	研究者番号：30323223
交付決定（予定）額（領域設定期間全体）：	（直接経費）694,500,000円

研究の概要： 古代西アジアでは人類史上初めて都市型社会が生まれ、都市を中心に地域の在り方が決定づけられる社会構造が広域に形成された。西アジアの都市遺構は、豊富な考古学的資料と保存性の高い媒体（粘土板）に書かれた多くの文字資料によって、都市文明の発生とその古代における変容に関して、大量のデータを提供する。本領域研究は、人類の都市との関わりの原点であり、都市をめぐる濃密な歴史的経験である古代西アジア都市の諸相について、その発生のプロセス、景観と社会的機能の変遷と多様性、環境との相互影響関係を、考古学、文献学、自然科学の学際的連携によって解明する。さらに「都市とは何か」という命題を、西アジアの隣接地域ならびに後代の西アジア都市の諸相も射程に収めて考察することで、古代西アジア都市の個性を浮き彫りにし、その後代への影響を明らかにすると同時に、現代の都市主導型文明のサステナブルな将来に向けて有用な文明論を提示する。

研究分野： アジア史及びアフリカ史関連、史学一般関連

キーワード： 西アジア、都市、考古学、楔形文字学、歴史学

1. 研究開始当初の背景

紀元前5千年紀末から紀元前4千年紀にかけて、メソポタミア（現在のイラクから北東シリアの地域）において人類史上初の都市が成立した。大型公共建築物と城壁を有し、種々の職業に従事する大人口が一定のヒエラルキーのもとに統合され、周辺世界の政治と経済の核となる複雑社会がここに誕生した。このような都市文明の様式は、前3～2千年紀には、メソポタミアとその周辺の広域に拡散し、西アジア各地に多数の都市が成立した。こうして、都市が政治・経済・文化の中心としての役割を担って、地域の在り方を決定づける構造が、西アジア全域に、そして世界の諸地域に形成され、以来、都市は地球的規模で人類史を決定づけてきた。現在、世界人口70数億人の半数以上が「都市」に居住し、現代文明の抱えるあらゆる問題も、都市の存在を抜きにしては考えられない。そうした意味で、都市の起源と本質を問うことは、優れて地球的にして現代的な課題である。古代西アジアは、都市主導型の文明が地球上で最も早く高度に発達した地域であり、豊富な考古学的資料と保存性の高い媒体（粘土板）に書かれた多くの文字史料によって、都市文明の発生とその変容に関する大量のデータを提供する。人類の都市との関わりの原点であり、人類史上最古の都市文明をめぐる濃密な歴史的経験であった古代西アジア都市の諸相の解明は、都市の本質を問うために決定的な価値がある。

2. 研究の目的

本領域計画は、古代西アジア都市の景観・社会的諸機能、そして都市の人間社会と環境との相互関係の探求に研究対象を定め、国内の諸分野（考古学、文献学、歴史学、言語学、宗教学、社会人類学、社会学、イスラーム学、都市計画学、文化遺産学、分析化学、地球科学）の人材と研究リソースを集結し、協働の場を形成して、我が国の古代西アジア研究を活性化する。そのうえで、海外の研究者とも密接に連携して、国際標準の有意義な研究を実践する。

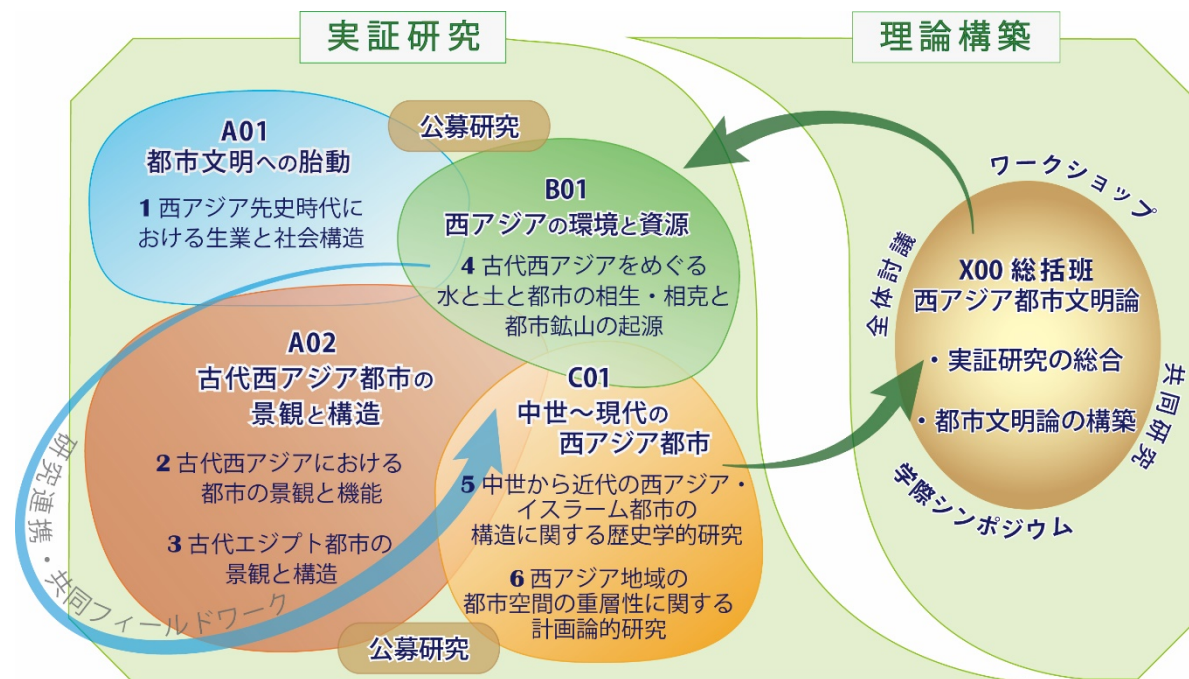
また、古代エジプト研究班と中世から現代の西アジア都市を扱う研究班を内包することで、古

代西アジア都市を相対的に評価し、古代から現在までの西アジア都市の在り方を通時的・共時的に俯瞰する。同時に、長期にわたる都市化の歴史において、都市文明が地球環境にどのような影響を及ぼし、また、どのような社会観やイデオロギーの変化を人間社会にもたらしたのかを人類学的あるいは文化論的に考察する。それによって長い歴史に累積された都市文明の姿に照らして現代の都市文明の在り方を省察し、現代社会に対して有意義な提言を導き出すことも目指す。

3. 研究の方法

本領域は、西アジアにおける都市の誕生、変容、社会的機能、多様性を学際的方法で、通時的・共時的に研究するために、A01「都市文明への胎動」、A02「古代西アジア都市の景観と構造」、B01「西アジアの環境と資源」、C01「中世～現代の西アジア都市」、ならびにX00「西アジア都市文明論」(総括班)の5つの研究項目を設定する。研究項目A01とA02は、前4千年紀末の南メソポタミアにおける都市の誕生に先立って、西アジア各地で都市文明に含まれる諸要素が断片的に出現していく現象を考古学的に解明し(A01)、その後のメソポタミアにおける都市文明の誕生をへて、西アジアならびにエジプトにおいて進展した3000年にわたる都市化の諸相を考古学と文献学の協働により研究する(A02)。研究項目B01は、西アジア都市文明を育んだ環境と資源を地球科学的・物質科学的方法で分析し、都市文明の発生と変容に環境がどのような影響を与えたのかを考究して、領域全体の底上げに貢献する。研究項目C01は、A群の扱う古代の都市文明をうけて、中世から現代に西アジア都市の伝統はどのように継続し、どのように変容したか、を解明し、現代の西アジア都市の諸相や社会的課題を分析する。

こうした諸項目を公募研究によって補足し、領域全体として西アジア都市の諸相を多角的・通時的に把握したうえで、研究項目X00(総括班)の主導により、古代西アジア都市文明の特徴と後代への影響を歴史的・社会的・文化論的に評価し、都市・人間社会・環境の相互関係、都市の類型、といった問題を総合的に論じたい。



4. 研究の進展状況及び成果

【研究項目A01「都市文明への胎動」】

計画研究1「西アジア先史時代における生業と社会構造」: 本格的な都市社会が成立する以前の西アジアの新石器時代について、考古学的研究を実施している。特に、多くの人口が集中する大規模集落(メガサイト)、儀礼祭祀に深く関係する公共建造物や祭祀センター、さまざまな器物の専門的生産、長距離交易ネットワークの発達などの現象を新石器時代にみられる「都市的様相」として捉え、都市という存在、あるいはその本質についての理解を深化させるべく、フィールド調査と考古資料分析を実施して諸研究が進む。

【研究項目A02「古代西アジアにおける都市の景観と構造」】

計画研究2「古代西アジアにおける都市の景観と機能」: 前3千年紀から紀元後3世紀までの様々な時代を専門とする考古学、文献学、歴史学、地理情報学、環境史などの研究者が参画し、メソポタミアとその周辺における都市の景観と社会的機能の変容を通時的に把握することをめざして、諸研究が行われた。特に、シュメル初期王朝時代ラガシュ(ギルス)の行政経済文書研究、古巴ビロニア時代と中アッシリア時代のテル・タバン出土文書研究、新アッシリア時代の王碑文と書簡の研究、新バビロニア時代の経済文書研究、セレウコス朝期～アルサケス朝期の天文日誌研究などの文書研究が行われた。考古学分野では、イラク(クルド自治区)のヤシン・テペ

遺跡の発掘が継続的に行われ、新アッシリア時代の居住址、副葬品を伴う未盗掘墓、水路跡など注目すべき発見があった。

計画研究3「古代エジプト都市の景観と構造」：前4千年紀の先王朝時代から古代末期までの古代エジプト各地の都市景観・建築とネットワーク、王権・神殿・墓地と都市構造、政治・行政と社会構造などをテーマとして、文書史料と考古資料の双方で研究が行われた。ヒエラコンポリス遺跡（先王朝時代）、ダハシュール北遺跡（中王国時代）、テーベ西岸の複数の高官の墓地（新王国時代）、サッカラ遺跡（新王国時代）、アコリス遺跡（末期王朝・ヘレニズム時代）で発掘調査を実施。また、考古資料、文書、既往研究の収集をおこない、各地の都市・集落の発展史や都市空間と墓地空間の関係、埋葬施設と社会階層の関係、都市と祝祭の関係、古代エジプト語の「居住地」を表わす種々の用語、などが研究されている。

【研究項目B01「西アジアの環境と資源」】

計画研究4「古代西アジアをめぐる水と土と都市の相生・相克と都市鉱山の起源」：地球科学、岩石学、同位体分析学、微古生物学、土壌分析化学、古環境学、災害科学などの専門研究者が参画し、都市化とともに西アジア各地に生じた資源の都市空間への集中（食材、土、石材、金属、水など）、コミュニケーション網やテクノロジーの発達などを、西アジア各地の堆積物、構造物、人工物の分析によって明らかにし、都市と環境の相互影響関係を地球科学的・物質科学的に解明する。メソポタミア下流域ウルク近郊の13mロガー試料を採取分析し、ザブ川上流のジャルモ遺跡で地形年代測定用試料を採取、イラク各地で出土した黒曜石の組成分析により由来を調べるなど、古環境分析のデータを収集しつつ、考古学研究を化学分析によってサポートした。

【研究項目C01「中世～現代の西アジア都市」】

計画研究5「中世から近代の西アジア・イスラーム都市の構造に関する歴史学的研究」：中世から近世・近代の西アジアの都市を対象とし、(1) 政治的中核都市とその広域ネットワークの地理空間的変容過程、(2) 伝統的都市の空間構造と都市を支える文化、(3) 西アジアの内陸部と沿岸部における都市形成と時代性（特に近世・近代）について、「都市」を中心とした地域ネットワークの盛衰、および「イスラーム都市」の構造や機能、といった課題を分析。これまで、特に(1)と(2)を重視し、エジプト、イラン、トルコなどでフィールド調査を行い、多数の研究会を行い、様々な都市の空間と機能、地域ネットワークを比較研究した。

計画研究6「西アジア地域の都市空間の重層性に関する計画論的研究」：都市計画論、社会人類学、文化財科学などの研究者が、現代西アジア都市にみる伝統的街区と新興地区の共存、異なる文化的帰属意識を持つ多様な住民の共生・対立と文化財保全の在り方、災害からの都市の復興、といった課題に注目し、西アジア都市の重層的構造を分析。特に、ダマスカス、イスタンブール、バイルート、アルジェ等を対象に、(1) 旧市街の空間整備の歴史的評価、(2) 都市計画と住民活動の人類学的研究、(3) 考古学遺産の位置づけと活用、(4) 地域比較と文化交流、(5) スラム政策、(6) 水利技術と庭園文化、(7) 文化遺産の保存などのテーマを研究した。

5. 今後の研究計画

以下の3つの方針によって、諸研究に取り組む：(1) 西アジア都市に関する独自の調査とデータ分析に基づいた個別研究を実施して、学問の前線を押し上げるような専門的・先端的な研究成果をあげる、(2) 計画研究がカバーする研究分野における既存研究の現状を全体的に把握し、それを批判的に評価すべく、データの収集とレビューを行う、(3) 「都市とは何か、都市はどうあるべきか」という普遍的問いに対して社会的にインパクトのある洞察を提示すべく、広い視野からの超分野的ディベートを重ねる。領域研究機関の後半に向け、全体としての「総論」の形成をめざし、「西アジア都市の特徴」や「都市とは何か」を考究する研究会や、シンポジウムを開催し、これらの活動の成果をとりまとめる。5年間の領域研究期間の終了後、1年以内を目標に、今後の西アジア都市研究の国際的なスタンダードになる英文研究叢書 (*Historical Aspects of West Asian Cities*, 全5巻) を公刊する。

6. 領域年次報告書

山田重郎編『科研費新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究1：研究成果報告2018年度（2019年3月 全244頁）

山田重郎編『科研費新学術領域研究 都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究2：研究成果報告2019年度（2020年3月 全316頁）

（その他、発表論文多数、以下のホームページ参照）

7. ホームページ：<http://rcwasia.hass.tsukuba.ac.jp/city>

「都市文明の本質：古代西アジアにおける都市の発生と変容の学際研究」

（研究会〔2018年度20回、2019年度29回〕のプログラム、上記の領域年次報告書、ならびに研究業績・発表論文のリストを掲載）